

知事記者会見の概要

日 時：令和4年6月1日(水) 10:00～10:45

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。
その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 第6回「山の日」全国大会やまがた2022参加者の募集開始について

代表質問

- (1) 新型コロナへの対応について

フリー質問

- (1) 「やまがたチェリサポ職員制度」について
- (2) 肥料価格の高騰への対策について
- (3) 参議院議員選挙への対応について
- (4) 新型コロナ対策に関するマスクの着用について
- (5) 外国人観光客の受入れについて
- (6) 宮城県川崎町における風力発電事業の計画について
- (7) 果樹王国情報発信の拠点施設整備について

<幹事社：YBC・産経・毎日>

☆発表事項

知事

皆さん、おはようございます。今日から6月であります。本県では、まもなく、さくらんぼシーズンを迎えます。県の園芸農業研究所の「やまがた紅王」でありますけれども、昨日現在でこれぐらい大きくなりました。(補足：生育状況を示した写真のフリップを提示する)100円玉よりも大きくなったところあります。順調に生育をしております。これから色づいていく、着色管理ということになるそうです。今後も順調に育ってほしいというふうに願っているところです。

それから、県では生産者団体・関係団体と連携をして、6月3日11時から霞城セントラルの1階におきまして、「山形さくらんぼキックオフイベント」を開催いたします。

また、さくらんぼの収穫作業を応援するため、「やまがたチェリサポ職員制度」(愛称：チェリサポ)を本日から開始しますのでお知らせをいたします。さくらんぼ収穫の人手不足に対応するため、これまでは県職員有志によるボランティア活動を推奨しておりましたが、相変わらず人手不足の現状というのは解消されておられません。未だ人手不足が続いているということでもあります。このため、この度、県職員がさくらんぼ収穫作業に従事できるようにしたものであります。さくらんぼ生産者の人手不足解消につなげてまいりたいと考えております。

農作業に特化した取組みとしましては、寒河江市などの例がありますが、都道府県では、全国初の取組みとなります。さくらんぼ県でありますので、さくらんぼに限って副業を認めることといたしました。チェリサポ制度の詳細につきましては、私の記者会見の後ですね、農林水産部から詳しく説明をさせていただきます。

それから新型コロナに関して、マスクの着用について申し上げます。5月20日政府から、マスク着用に関する考え方が示され、先週、厚生労働省からリーフレットが公表されたところあります。県では、これらを踏まえ、コロナ克服経済再生アドバイザーであります医療専門家の方々から、ご意見をいただきました。そのご意見を参考としながら、熱中症のリスクが今後、高まる懸念も念頭に置いて、県民の皆様にはわかりやすい啓発チラシを作成いたしました。

アドバイザーのご意見を踏まえたポイントとしましては、主に3点挙げられます。

1つ目ですね、冒頭にマスク着用が不要の代表的な場合を大きく示しました。

2点目は、場面別の参考例というのを表形式にして、一覧性を持たせました。

それから3点目ですが、政府のリーフレットでは、着用の場面を「推奨」と表記しておりますが、山形県版では、よりわかりやすく「着用が望ましい」というふうに示しました。こういった、随所にわかりやすい工夫をしたところでございます。

今後、県のホームページやSNS等に掲載するほか、市町村や関係団体と連携しながら、広く県民の皆様にお知らせをしてみたいです。

また、県教育委員会でも学校におけるマスクの着用について、児童生徒向けのチラシを作成して、配布することとしております。

なお、基本的な感染対策としてのマスク着用の位置付けは、変更するものではありませんので、県民の皆様には状況に応じたマスクの着用をお願いいたします。

このマスクの着用なんですけども、マスク着用が望ましい場面だけをちょっと取り出してみますと、会議や座談会、また通勤電車やバスの中、それから室内での打ち合わせ、また観光地の人混みやスポーツ観戦、そういったところではマスクの着用が望ましいということになります。なお、高齢者の方と会う時、また病院に行く時は、マスクを着用しましょう。それからですね、マスクが必要になることもありますので、マスクは常に持ち歩きましょう。状況に応じた着用をお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

それから、私から発表が1点ございます。山の日全国大会のことです。第6回「山の日」全国大会やまがた2022参加者の募集開始について申し上げます。

8月10日、11日に、北海道・東北地方では初となる第6回「山の日」全国大会が、本県の蔵王を主会場に、「山を想い、山を愛し、山と生きる～樹氷輝く蔵王のやまがたから、未来へ～」を大会テーマに開催されます。

8月10日は、樹氷再生に向けた取組みの見学も盛り込まれた、蔵王記念登山を実施いたします。初心者向けも含め、2つのコースを設け、登山ガイドが案内いたします。一般参加者募集人数ですが、自然観察堪能コースは60名、自然環境保全コースは40名であります。

それから、11日は、本県にゆかりのある女優の小林綾子さんや、東根市在住で世界第2位の高峰K2登頂を果たした登山ガイドの飯澤政人さん、また登録者数が21万人の登山Youtuberのかほさんをゲストに迎え、やまぎん県民ホールを会場に記念式典やトークイベントを開催いたします。

本日より、この大会行事への参加者の募集を開始いたします。山好きの方だけでなく、これから山に親しみたい方にも、山の楽しみ方を知っていただく良い機会になりますので、ぜひ多くの方々にご参加いただきたいと思います。

なお、11日にやまぎん県民ホール前広場で開催される歓迎フェスティバルは、来場自由となっておりますので、当日どなたでもご参加いただけます。

また、大会に併せ山形百名山のトレッキングと各地域の温泉と食を満喫できるオプションツアーも用意してございます。こちらは6月10日からの募集開始となりますので、ぜひお申込みいただければと思います。

そのほか、県内には、1年を通して山や自然に関するイベントがあります。年間を通して多くの方々にご参加いただき、県内の魅力ある山々や自然に親しんでいただきたいと思います。

一連の行事には多くの方々に参加されますので、各会場とも入場時の検温や手指消毒、マスク着用など、感染防止対策と熱中症予防対策にもしっかりと対応してまいります。

この大会を契機に、県民の皆様には、地域の宝である山々の魅力や樹氷再生など自然環境保全の取り組みの大切さを再認識していただき、身近な山々にも一層愛着を深めていただきたいというふうに思っております。私からは以上です。

☆代表質問

記者

代表幹事のYBCの新野と申します。質問させていただきます。今週、月曜日(5月30日)には約4か月ぶりに新型コロナウイルスの新規感染者が50人を下回りました。収束傾向が顕著となっているかと思われまます。今の知事の発言・発表と重複する部分もあるのですが、現在、県民に対して多種多様なお願いを呼びかけているかと思いますが、今後、内容の見直しか、それとも当面継続する方針かと今後の見通しについて知事の考えを理由も併せてお伺いします。

知事

はい、ではお答え申し上げます。本県の新規感染者数ですが、大型連休の後半から増加をしておりました。ですが、5月21日以降は減少傾向となっておりまして、病床使用率も10%台と比較的低い水準で推移をしております。

一方、本県の「注意・警戒レベル」のレベル判断の指標の1つであります「直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数」、これは、5月31日現在で83.99人となりました。依然として高い水準にありますので、引き続き警戒が必要な状況と捉えております。このため、県民の皆様への呼びかけ内容につきましては、マスク着用の考え方なども踏まえ、「県民の皆様及び事業者の皆様へのお願い」というのを修正いたしますとともに、今後の感染状況を注視しながら、適時適切に見直しを検討してまいります。この見直しでありますけれども、本部員会議を例えば書面開催というようなことにいたしまして、決まり次第、皆様方にお知らせしたいというふうに思います。

記者

代表からは以上です。ありがとうございます。

☆フリー質問

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願ひします。さくらんぼ収穫の「やまがたチェリサが職員制度」についてお伺ひしたいと思ひます。公務員のアルバイトを許可するには、一定のハードルがあつたのかなというふうには思ふんですが、さくらんぼに限って解禁する狙いですとか、意義について改めて教えてください。

知事

はい、さくらんぼというのはですね、本県の代表選手、スターと言ってもいいかと思っています。フルーツをたくさん生産していますけど、その中でもスター選手です。流通、販売、加工食品、観光業など、関連産業の裾野がとても広いんですね。ですから、大変大事な農産物であります。

この、さくらんぼ収穫の時の労働力不足というのが数年続いておりまして、それが収穫量の確保にもつながっていきますのでね、これはやはり本腰を据えて、官民一体となってしっかりと収穫量確保ということに努める必要があるというふうに考え、このようにチェリサポというようなことを考えたところであります。

副業として、県職員に、まずはとにかくさくらんぼに限って、そこから始めたいというふうに思っております。

記者

今回、さくらんぼに限ってということですけど、県内、ほかの農作物も人手不足っていう問題は一樣にあると思うのですが、ほか農業支援全体に広げていくお考えというのは今のところございますでしょうか。

知事

そうですね、まずこのさくらんぼという果物に限って、今回、副業を認めることとしました。このあとにですね、ちょっといろいろと検証もしてみたりして、次につなげられればいいなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

共同通信、阪口です。お世話になります。今まさに山形県は農繁期という時期だと思いますけれども、昨日発表がありました、全農のほうでですね、肥料価格がかなり、最大94%ですかね、高騰するというような状況になっております。

率直な受け止めとですね、県として何か対策、今も補正予算のほうでですね、組んでいらっしゃると思いますけれども、さすがにここまでちょっと想像していらっしゃるなかつたんじゃないかなと思うので、どのような対策を追加で考えられるのか、もしあれば教えてください。

知事

はい。本当に肥料の価格が大変に高騰しているということを、私、今朝のニュースでも

ちょっと聞きました。大変なやはり、値上がりだなというふうの実感をしたところであります。

そうですね、まずは6月の補正予算というところで、その対策というものをですね、お示ししているかと思えます。これで対応が大丈夫かどうかというようなことも含めてですね、内部で検討してもらいまして、適切に判断してまいりたいというふうに思っております。

記者

率直に、大変な値上がりというところでしたけれども、なかなか農業を重視していらっしゃる知事にとって、なかなか厳しい声も聞こえて来るんじゃないかなと思うのですが、その辺りいかがですか。

知事

そうですね、ここまでやはりね、値段が、価格が高騰するというのは、コストがかかるということになりますので、すぐ価格に転嫁できるかというところ、そこもどうなのかなというふうに思っていますので、どういうふうにしたらやはりその営農意欲が失われないようにですね、行政としてもどういうことができるのか、関係機関・団体と一緒に考えていきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございました。もう1点、話題も変わるのですが、すいません。参院選のほうですね、構図が固まりつつありますけれども、毎週たぶん質問が出ていますけれども、知事としてどういうふうに対応されるか、また議会直前ですけれども、何か伺えますでしょうか。

知事

はい。報道を見て承知をしておりますけれども、私自身は先週の回答とほとんど同じであります。まずもって目の前の公務に邁進したいというふうに思っています。

明日から県議会が始まりますので、県議会で様々な補正予算、また様々な課題について議論がなされると承知をしておりますので、しっかりとその対応をしていきたいと思っております。

また、コロナも2桁には1回なりましたけれども、また翌日から3桁、100ちょっとというようなことが続いております。やはり、新型コロナ対応というところでもですね、まだ収束しているわけではありませぬので、そこもやはり緊張感を持って対処していきたいというふうに思っていますので、参院選というのとはちょっとその先のことかなと、まだこの時点では考えていないところでございます。

記者

読売新聞の藤本です。よろしくお願ひします。先ほどマスク着用についてお話あったと思うのですが、着用が望ましいというところにスポーツ観戦のお話ありました。その中で先日Jリーグが、声出しの応援について実証実験を行うということで、モンテディオ山形の試合が対象に入っていました。そちらの知事としての受け止めみたいなことを伺えればと思います。

知事

そうですね、スポーツ観戦の時は着用が望ましいというふうに、チラシではリーフレットではなっておりますけれども、やはり実証実験のようなこともしていただきながらですね、私としてはそれを注視していきたいというところです。

やっぱり声を出して観戦したいというのが心情であるかと思ひますけれども、それがやはりコロナの感染拡大につながるかつながらないか、というそこがやはり大事なところかと思ひますので、その実証実験をですね、注視していきたいというふうに思ひます。

記者

すいません、じゃあ、もう1点。先週土曜日にインバウンドのこちら実証事業というものが行われて、本県でも外国人の方がいらっしゃいましたけれども、そちらについて何と言うか、手応えと言うか、担当部署の方から伺っていることがあれば教えていただければと思います。

知事

はい。そうですね。

観光庁で外国人観光客の受入再開に先立ち、少人数の団体パッケージツアーを受け入れる実証事業を行いました。本県でもこのツアーを5月28日から3日間受け入れたところでございます。

アメリカからの3名、旅行会社の方でありましたけれども、毎日検温を行って体調を管理し、マスク着用や立ち寄り先での手指消毒など基本的な感染対策を遵守いただきながら、最上川の舟下り、出羽三山、蔵王、山寺やさくらんぼなど、本県の観光をお楽しみいただいたと聞いております。また、受け入れた県内観光関係者にお話をお聞きしますと、ウィズコロナにおける外国人観光客を安心してお迎えできる、そういう手応えを感じていただいたようであります。

政府では、今回の実証事業の検証を通して、感染地の対応など外国人観光客受入れに必要なガイドラインの策定を進めると承知をしております。本県としましては、今回の実証事業に参加した経験を活かすとともに、政府の方針を踏まえ、受け入れ体制の整備や感染防止対策について、市町村や関係機関としっかりと連携をして対応をしてまいりたいとい

うふうに考えております。

記者

ありがとうございます。

記者

NHK、金敷です。よろしくお願いします。

マスクの件で確認したいのですが、すいません。冒頭ちょっと知事のご挨拶の中であったのを聞き漏れがありまして、政府と県のこの今回作ったチラシとの違いを確か1点話されていたと思うのですが、そこをすいません、確認させてもらえますか。

知事

工夫を凝らした、主な3点について申し上げました。

1点目がですね、冒頭に「マスク着用が不要」の代表的な場合を大きく示しました。それから2点目ですが「場面別の参考例」というのを表形式にして一覧性を持たせました。それから3点目は、政府のリーフレットは、着用の場면을「推奨」というふうに漢字2文字で表記しているのですけれども、本県版ではより分かりやすくしまして「着用が望ましい」というふうにしたところでございます。主なところではこの3点を。ただ全般的に文字を大きくしたりですね、イラストを入れたりしながら、ちょっと親しみやすく分かりやすくなったかなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。このマスクなのですが、こういうチラシと言うかリーフレットも作成しましたが、すいません、先週の会見の時にも私聞きましたけれども、外しにくい雰囲気はまだどうしてもあると思われまして。特に「屋内でも会話がなくて2メートル以上離れていれば不要」ということで書いてありますけれども、どうしても人がいるところというのは、外しにくいという感じがあります。

熱中症の警戒も含めてですね、知事から改めて呼びかけをもう一度いただけますでしょうか。

知事

はい。そうですね、まずは新型コロナに対してですね、基本的な感染防止対策、これはとても大事な基本的なところだと思いますけれども、ワクチン接種というのが感染防止の要だとも考えております。ワクチン接種を市町村と連携してしっかりと進めながら、地域の経済・社会活動、また教育活動といったことをですね、両立させるというふうにしていきたいというふうに考えています。

そして、マスクの着用でありますけれども、これから暑い夏、本格的な夏という季節が近づいてまいります。7月8月は本当に山形県、大変に蒸し暑い、そういう土地柄でもございますので、マスクをしているとですね、熱中症のリスクが大変高い。感染のリスクよりも熱中症のリスクのほうが高いというふうな医療専門家のお話も聞いておりますので、ぜひこのマスクの着用についての分かりやすいリーフレットを作成しましたので、これをできるだけ多くの皆さんに周知していきながら、またお知らせをしながら、適切なマスク着用ということについて、県民の皆様にはお願いをしたいというふうに思っております。状況に応じた着用ということをお願いをしたいというふうに思います。

記者

山形新聞、田中です。よろしくお願ひします。先ほど共同通信の方からも質問がありました。まずは参院選についてお聞きします。知事、公務にまずは、目の前の公務に集中する、そして明日から6月定例会開会になりますので、そこでの議会との議論に集中するということでした。予想される公示まで3週間となりましたけれども、今回の参議院選についてですね、どういったことが問われる参院選になるのか、争点についてですね、まずは知事はどのようにお考えになっておられるのか、お聞かせいただければと思います。

知事

争点ですか。何人かの方、報道で承知をしているのは4人ですか、はい。複数の方が立候補をされると承知をしておりますので、どういった主張をですね、なされるのかということは私としても注視をしていきたいと思っておりますし、県民の皆さんもぜひそれぞれの候補者の方々がどういったことを考え、どういった信念・信条・お考えを持って立候補されて国会活動をされたいというふうに思っているのか、やはりしっかりとそういったことを把握して投票していただきたいというふうに思っています。

私自身の考えというのは、ちょっとここでは控えさせていただきたいというふうに思います。

何よりも投票率は山形県いつも一番というふうになっておりましたので、皆さんしっかりと投票に行ってご自分の大切な1票をですね、有意義に投票していただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございました。

6月15日会期末の通常国会、最終盤に入ってきてですね、補正予算のほうも、昨日ですね、参議院で可決されました。

たとえば、ウクライナ情勢であるとか、憲法改正議論とかですね、知事も取り組まれておられるコロナと経済再生との両立であるとか、あと知事も常に訴えておられる人口減少

と地方創生ですね。こういった地方への分散・分散型社会の実現、こういったものも争点になるのかと思います。知事も今触れられました投票率との関係で、自民党がこれまでなかなか対立意向を示さなかった中で、今回与野党対決の構図、これはある意味、国政選挙での山形でのこれまでと同じような構図になるかと思うのですが、こういった与野党対決による議論の活発化と投票率との関係ですね、改めて知事はそれをどのように捉えられて見られておられますか。

知事

そうですね、選挙を通して論戦が活発になってですね、県民の皆さんのやはり国政に対する関心が高まってですね、大いに高まって、それが投票するということが、県民一人ひとりの生活に影響してくると、反映されるということもありますので、ぜひ投票という大切な行動をですね、無駄にしないでいただきたい、有意義に行動していただきたいというふうに願っているところであります。

記者

ありがとうございます。参院選がらみでもう一つ、その投票に関してですね、私の記憶が間違っていたらすみませんけども、18歳選挙権が導入されたのが前々回の、山形では参議院選挙だったかというふうに記憶しております。今年の4月1日から民法が改正になってですね、18歳が成人年齢と、より責任を伴うというような世代になりました。この若い世代、県全体の投票率は高くても、なかなかその18歳、19歳、若い世代の投票率はそれに比べれば低いと。こういった若い有権者に対してですね、知事としてその選挙への参加、投票、こういったことを求めておられるか、最後に参院選に関しては教えていただければと思います。

知事

はい。18歳から投票できるということでありまして、今年の4月からは成年というのが18歳以上というふうになりました。一つの大きな転換期であるなというふうに感じているところであります。

18歳といいますと、高校三年生もおられますし、また大学生といった学生さんたちもおられます。もちろん社会人になっている方もおられますけれども、どうしてもですね、若い方々の投票率というのは以前から低いと言いますか、中高年よりは低いというところがやはりもったいないなというふうに思っております。

山形県の、また日本の将来だけでなく世界の将来、SDGsとかですね、そういったことにまでつながっていくのが政治でありますので、やはり若い方々もというか、若い方々ほどやはり関心を高く持って選挙に立候補される方々のその思い、考えといったものをしっかりと把握して投票に行っていただきたいというふうに思っています。「あなたたちの未来を決める選挙なんだから、しっかりと投票に行ってください」というふうに申し上げたいと

思います。

記者

ありがとうございます。話題は変わりました2点目です。これは風力発電施設、計画に関してです。

先般、関西電力がですね、蔵王、これは宮城県側になるわけですが、誘致を計画していることが明らかになりました。これは具体的なものはなかなかまだ伝わっていませんね、概要がよくわからないところがありますけども、蔵王というとやっぱりこの内陸地方、とりわけ山形市にとっての一番の観光資源にもなります。宮城県側の立地計画であるとはいえですね、知事として蔵王への風力発電の設置計画というものをどのようにお考えになりますか。

知事

はい。宮城県の川崎町において計画されている事業でありますけども、山形市が隣接しているということで山形県にも計画段階環境配慮書が送付されました。5月30日に受領しております。

今回は宮城県内に計画されている事業ということですので、まずはですね、宮城県の皆さんがどのように考えるかというのが第一だというふうに思っております。

ただし、今回の計画では県境からの景観に影響がある可能性があるものと聞いておりますので、環境影響評価法に定める手続きに従って、山形市長さんや専門家のご意見も聞いた上で事業者きちんと意見を申し上げたいというふうに考えているところです。

記者

これ、事例はちょっと異なるかもしれませんが、2020年にですね、鶴岡の羽黒にですね、計画がありました。あの時は県の調査自体では風力発電の適地ということになっておいて、民間の方が開発を計画なさったわけですけど、知事はやっぱり精神文化であるとかですね、羽黒の景観、住民感情ですね、こういったものへの配慮としてはやっぱりあり得ないということで認識を述べられておられました。

ちょっと種類は違う、必ずしも一致はしてないかもしれませんが、その蔵王という場所に風車が建つということに関しては、知事としてはですね、景観とか観光とかですね、こういったことへの影響も含めて、なかなか言いづらいことかもしれませんが、改めてどのようにお考えになられておられますか。

知事

そうですね、風力発電ということで再生可能エネルギーはしっかりとですね、促進すべきだという考えを持っておりますけれども、やはりそれぞれのいろいろな事情ということも

しっかりと勘案をしながらですね、進めていくべきということも考えておりますので、今回は山形蔵王からもどういうふうに景観がですね、なっていくのかも含めて、やはり山形市さんなり、また蔵王の皆さんなりのお考えもしっかりとお伺いしながら、あとこれからの、山形県内でも1番か2番、1番かな、出羽三山と蔵王といったらやはり山形県の観光のですね、最も大事なところでありますので、そういったところにも影響がどうなるのかというようなことも考えながら、皆さんのご意見もお聞きしてしっかりと意見を述べたいというふうに思っております。

記者

YBCの新野と申します。2点ほどお伺いします。

「やまがたチェリサポ職員制度」の件で、今回人手不足について主眼を置かれていらっしゃいますが、例えばスタートアップステーションのジョージ山形ですとか、ビジネスの視点で地域課題を解決しようという動きが活発化されているかと思えます。

今回のこの制度を通して、県職員の方にも、この制度を使って実際に農家さんのところへ行って、どういう意識で働いてほしいか、または県に持ち帰ってきてほしいか、そういう思いはありますでしょうか。

知事

そうですね、本当にこれは農業界のさくらんぼ生産農家にとっては非常に大きい課題でありますし、それがほかの農業にも共通してこの人手不足というのがあるかもしれないというような状況の中でですね、まずはさくらんぼに限って副業を認めることとしたわけがあります。

実は県職員の皆さんがどういう、例えばさくらんぼ収穫作業に関心を持っている方がどのくらいいるかなということで、実は職員を対象とした事前アンケートを行ってみました。そうしましたところ、2,553人から回答がありまして、そのうち約半数近くがですね、1,155人が「ぜひ働きたい」か「できれば働いてみたい」という回答でありました。率にすると45%になるんですけども、半数近い職員がですね、できれば働いてみたい、ぜひ働きたいというようなことでありましたので、人数にすると1,000人ちょっとということになりますけれども、少しでもその人手不足の解消になればいいなと。

そして、例えばその収穫作業を体験してですね、県職員の皆さんが我が県のさくらんぼに対する様々な情報と言いますか、知識、そういったことを深めてもらってね、今後のさくらんぼのPRでありましたり、またいろいろな人手不足でありましたり、農家の様々な事情や課題といったものを現場で体験できて、その後の業務にも活かしてもらえればいいなと。これは観光にもつながると思いますし、いろいろなところにつながっていくと思います。違う産業とのつながりといったことにも結び付くかもしれませんし、とにかくいろいろな体験をして、職員としても私は見聞を広めてほしいなというふうに思っています。

ビジネスというようなことでありますけれども、そうですね、やはりまずは、体験が大きいと思います。そういったことを体験しながら、地域課題の解決に少しでもですね、実感を持って対処することができればというふうに思っています。

まず体験は、百聞は一見に如かずということもありますけれども、現場に行ってわかることがたくさんありますので、多くの職員の皆さんにできるだけ体験してほしいなど。そしてそれが生産者の皆さんの労働力不足の解消に少しでもつながってほしいということと、官民一体となってさくらんぼ県を盛り上げて、山形県ですね、やっぱりさくらんぼで盛り上げたいというのが私の偽らざる気持ちであります。

記者

ありがとうございます。また別件でもう1件なんですけれども、明日から県議会が開会します。ちょっと報道のほうにいただいた資料では読み取れなかった部分で、いわゆるフルーツミュージアムの件については、今回何らかの形で県議会さんのほうに示すというお考えはありますでしょうか。

知事

いつ頃なのかというようなことはわかりませんが、しっかりと内部で検討しているようでありますので、今議会になるかどうかはもちろんわかりませんが、しっかりと議論をしていただく時期はくるだろうというふうには思っております。